

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>聴覚障がいのある幼児・児童・生徒一人一人の教育的ニーズに対応した適切な教育を行い、自立と社会参加に向けて豊かな心とたくましく生きる力を育てる。</p> <p style="text-align: center;">めざす子ども像</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>【知】あそぶ・学ぶ・学び合う子 【徳】やさしく・かかわる・つながる子 【体】元気でやりぬく子</p> </div> <p>【数値目標】 「学校が楽しい」への肯定的回答100%</p>	<p>今年度の基本方針</p> <p><基本方針> 1. 子どもが主役となる授業づくりと確かな学力の定着 2. 友だちやまわりの人に進んでかかわり、仲間としてつながろうとする態度の育成 3. 心と体を鍛え、健康増進・体力向上に努める態度の育成 4. 自立と社会参加をめざしたキャリア教育 5. 子どもと向き合う時間を充実するための業務改善</p>	<p><本年度の合言葉> 「真心・笑顔・感謝」 <学部テーマ> ○幼稚部…「ここにこ・わくわく・なかよし」 ○小学部…「レッツ・チャレンジ」 ○中学部…「レッツ・エンジョイ」 ○高等部…「ドリームズ・カム・トゥルー」 ○支援部…「レッツ・ビー・トゥギャザー」</p>
----------------------------------	---	---	---

年 度 当 初				評 価 結 果 (10)月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1. 子どもが主役となる授業づくりと確かな学力の定着 【数値目標】 「授業が楽しい、よくわかる」 100%	(幼) (1)体験的な活動を通して様々な事象に主体的にかかわろうとする力を育てる。	(1)きこえにくさにより、情報量が少なかったり興味や関心が広がりにくかったりする傾向にある。	(1)身近な事象に積極的にかかわり、気づいたり、考えたりする。	(1)個々の幼児の実態を把握し興味や関心が持てるような活動を設定する。 (1)具体物や絵、写真などを補助的に使い、内容の理解を促す。			
	(小) (1)基礎学力の定着に向け、知的好奇心に働きかけるような授業づくりに努める。	(1)児童の実態に幅があり、個に応じた丁寧な支援が必要である。学習規律が身につくにつれ、時間いっぱい活動に取り組むことができるが、語彙の拡大やコミュニケーション方法や文法等表現の力に課題がある。	(1)期待感を持ち、意欲的に学習に取り組む、自分の考えや意見を持ち伝えようとする事ができる。	(1)研究を通して授業づくりや支援について学部で情報交換したり、児童の変容について共有するようにする。諸検査の結果や日々の観察を通して実態を丁寧に把握し、実態に応じた目標や活動の設定ができるようにする。			
	(中) (1)目標を持ち、学習規律を守って意欲的に学習する態度の育成に努める。 (2)集団の力を有効に活用しながら自己の思考力を深めていく話し合い活動の充実を努める。	(1・2)学習状況が様々であり、個に応じた丁寧な指導をすることが必要である。学習規律が定着せず、取り掛かりに時間がかかることがある。友だちや周りの大人の様々な考えを取り入れて、自分の考えをさらに深めていくことに課題がある生徒がいる。	(1)学習規律を守り、本時の目標の確認して意欲的に学習に取り組むことができる。 (2)友だちや周りの大人の意見を参考にし、自らの考えをさらに深め、それを伝え合うことができる。	(1)年度当初、学部全体で確認した学習規律を守るよう生徒同士のかかわりを大切にしながら声かけをしていく。本時の目標達成状況が生徒に分かるような手立てや工夫をする。 (2)積極的に発言したり質問したり友だちや周りの大人の意見を参考にしたりできるよう学習内容や発問の仕方等を工夫する。授業の中に話し合いの活動を設定する。			
	(高) (1)一人一人の実態に応じた学習支援の工夫と指導を図る。	(1)基礎学力の定着が課題の生徒や大学進学希望の生徒など学習の習熟度には差がある。また、課題の提出や自主学習などスケジュール管理を含めて指導が必要な生徒がいる。	(1)課題の提出を守ったり、自主的に学習したりする姿が見られ、基礎学力や思考力が向上する。	(1)個々の生徒の特性や進路に応じた指導や支援方法をケース会議や学部研究会などで共通理解し、日々の授業に生かす。			
2. 友だちやまわりの人に進んでかかわり、仲間としてつながろうとする態度の育成 【数値目標】 「自分にはよいところがある」 80% 「友だちのよいところをみつけている」 80%	(幼) (1)身近な人とかかわりを通して、人を思いやる心を育てる。 (2)相手の話を理解したり、感じたことや考えたことを伝えたり表現したりする力を育てる。	(1)一人学級が多く、集団活動を意図的に設定する必要がある。 (2)自分の気持ちを伝えるための表現方法が未熟であったり経験に伴う言葉の定着が不十分であったりするため、やり取りが難しい場面がある。	(1)楽しく活動をする中で、友だちの良さに気付く。 (2)幼児が手話やキューサインを使って相手とやり取りを楽しむ。	(1)幼児が互いにかかわりを深め、協同して遊ぶようになるため、学部での合同活動を意図的に設定する。 (1)教師がコミュニケーションの仲立ちをし、幼児の気持ちを伝える支援をする。 (2)生活全般を通して幼児の興味関心に沿った話題を取り上げ、伝え合う楽しさが感じられるようにする。			
	(小) (1)話を最後まで聞いて応答したり、自分の経験や気持ち等を相手にわかりやすく伝えたりできるよう、表現力の向上に努める。	(1)話を最後まで聞いたり、自分の気持ちを相手に分かるように伝えたりすることの未熟さから、トラブルになることがしばしばある。教師が言葉を足す等仲立ちすることで相手の気持ちを理解しようとする態度が育ってきている。	(1)相手の話を聞き、内容を理解したり、自分の経験や気持ち、考えをまとめて相手に伝えたりしようとする。	(1)他者の考え方や意見を知る場や自分と違う考えを言われた時の答え方について一緒に考える場を設定する。 (2)自分の気持ちや考えを端的に伝えられるよう、まとめ方を一緒に考える活動を設定する。			
	(中) (1)集団の力を有効に活用しながら友だちや周りの大人とのより良い関係を築ける思考力や表現力の向上に努める。	(1)友だちや周りの大人の意見を受け止め、より良い関係を築いていくことに課題がある生徒がいる。	(1)友だちや周りの大人の意見を受け止め、自分なりの考えや思いを持ち、相手や場に応じた受け答えをすることができる。	(1)様々な集団活動を通して、友だちや周りの大人の考え方や意見を知る場を意図的に設定したり、日常生活の中でも使えるように社会生活に必要なマナーやルールについて学び、実践する場面を設ける。 (1)友だちや周りの大人との関わり方やマナー、ルール等については生徒の実態に応じて視覚的にわかりやすい提示や掲示方法を工夫する。			
	(高) (1)表現力やコミュニケーション力の向上を図る学習活動の充実に取り組む。	(1)素直で人と関わることが好きな生徒が多い。口話で会話が可能で生徒、手話が必ず必要な生徒、手話でコミュニケーションをとることが初めての生徒など、実態は様々である。相手の気持ちを考えて行動したり、相手や場に応じて自分の考えを伝えるように表現したりすることに課題を持つ生徒もいる。	(1)相手や場に応じて積極的かつ適切にコミュニケーションを取る力が向上してきている。	(1)自立活動などの時間を活用し、手話の学習を取り入れたり、相手や場に応じた適切なコミュニケーションがとれるような具体的な学習場面を設定したりする。			

年 度 当 初					評 価 結 果 (10)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
3. 心と体を鍛え、健康増進・体力向上に努める態度の育成 【数値目標】 「自分のめあてをきめて、からだづくりをしている」 80%	(幼) (1)進んで体を動かそうとする気持ち育てる。	(1)体を動かすことを好むが、できないとあきらめることもある。	(1)いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。	(1)屋外での活動や近くの公園への散歩などを計画的に実施する。 (1)外部講師の指導を参考に、個々の実態に合わせた運動を計画する。			
	(小) (1)身体づくりを進める。 (2)粘り強く取り組もうとする態度を育てる。	(1)定期的にサーキットに取り組んだり、休憩時間に体を使って遊んだりしているが持続力等に課題がある。 (2)物事に粘り強く取り組むことに難しさがあり、すぐにあきらめたり、集中が持続しなかったりする。	(1)主体的にサーキットや運動に取り組むことができる。 (2)少し難しい活動でも、教師の支援を受け最後まで取り組もうとする。	(1)サーキットや運動の流れや手順を理解し、自分のできるよう、やり方や順番、終わりの時間を明確に提示する。 (2)児童の実態に配慮した活動の設定や支援の工夫に努める。			
	(中) (1)自己を適切に理解し、心身の健康保持のために工夫する態度の育成に努める。 (2)粘り強く物事に取り組み、体力を向上させようとする態度の育成に努める。	(1)ストレスが溜まってもその対処の仕方がわからず、他者とトラブルになったり不快な思いをさせたりしてしまうことがある。 (2)少しきついことや難しい事柄に対して、諦めが早かったり物事に粘り強く取り組めなかったりすることがある。	(1)自分の心身の状態を知り、気分転換をしたり友だちや周りの大人に相談したりできる。 (2)掃除時間の雑巾がけや月1回の学部の体力づくり活動に意欲的に取り組む。	(1)気分転換や友だちや周りの大人への相談等の方法を学ぶ機会を学習や日々の生活の中で設定する。 (1)自分の思いの伝え方について特設自立活動(アサーション等)等で学習する機会を持つとともに日々の生活の中で指導する。 (2)掃除時間の雑巾がけや学部の体力づくり活動であきらめずに最後までやりぬける活動を設定する。			
	(高) (1)心と体を整えたり体力向上や健康増進を意識したりした学習活動の充実を図る。	(1)体を動かすことを好む生徒が多い。自分で起床ができる等生活リズムの確立や衛生管理に課題を持つ生徒、卒業後の余暇活動につながる趣味を持つ生徒もいる。また、卒業後に長時間の立ち仕事にも耐えられる体力を身に付けることや集中力の持続、物事に粘り強く取り組む姿勢を課題とする生徒もいる。	(1)心と体のバランスを整え、様々な活動に最後まで粘り強く取り組むことができる力が身につけている。	(1)生徒の実態に応じた心と体のバランスを整え、最後までやりぬける活動の工夫や、卒業後の余暇活動につながる活動の工夫を行う。			
4. 自立と社会参加をめざしたキャリア教育 【数値目標】 「将来のゆめがある」 100%	(支) (1)保護者のニーズに合った時期と内容を考えて教育相談を実施できるよう、保護者が必要としている支援の把握に努める。 (2)通級による指導で、障がいに基づいた困難さに気づき、社会参加に向けて望ましい態度を育てる。 (3)難聴の子どもの実態を的確に把握し、個々のニーズに合った支援や情報提供に努める。 (4)切れ目ない支援体制構築に向けて、各関係機関と協議し、センター(中核機能)立ち上げにかかわる。(戦略事業の内容含む)	(1)保護者自身が今何が必要なか何に困っているのかわからないことが多い。 (2)きこえにくさからくる困難さに気づきにくく、気づいていても困り感を主体的に改善したり軽減しにくい。 (3)難聴(一側性難聴含む)の子どもに対して、在籍園や学校に課題意識が少なく、情報交換や連携がもちにくい。 (4)新生児聴覚スクリーニング検査後の早期支援は医療との連携も充実し、なされてきているが、それが継続・連続した支援につながっていない。	(1)保護者が子どもの成長に見通しをもち、気持ちに寄り添って楽しみながらかかわるようになる。 (2)自らの課題に目を向け、主体的に取り組んだり困ったときに必要な支援を依頼している。 (3)在籍園や学校が課題に気づき、本校と連携し、必要な支援を受けている。 (4)中核機能をもったセンターが設立され、乳幼から大人までの切れ目ない支援体制の基礎ができていく。	(1)保護者にとってめやすになることばの獲得や聴覚の活用、発達などについて何か1つでも示せる物を作成し、教育相談で活用する。 (1)保護者間でつながり、情報交換できる場がもてるよう工夫する。 (2)通級指導で行う自立活動プログラムを活用し、個々の課題に売った教材を工夫し、それをもとに学習を組み立てる。 (3)支援部だよりなど難聴についての情報を在籍園や学校・保護者に提供し理解を図る。 (3)難聴学級の参観を実施し、子どもの実態を把握するとともに、担任とのつながりがもてるようにする。 (4)県内唯一乳幼児の早期教育に当たっている聾学校としての意見が言えるよう、校内で具体的な内容(運営機関・場所・体制等)について話し合い、中核機能をもつセンター立ち上げの検討会に参加する。			
	(小) (1)目標に向かって挑戦しようとする態度の育成に努める。 (2)望ましい生活習慣や態度の育成に努める。	(1)教師の励ましや支援により、様々なことに挑戦しようとする姿がみられている。 (2)基本的な生活習慣や学校生活のルールについて身につくにつれて、教師の確認や声かけが必要な場面が多く見られる。	(1)教師と一緒に活動や学習のめあてを確認し、時間いっぱい取り組むことができる。 (2)時間を確認しながら学習の準備や片付けをしたり、ルールを守って生活したりできる。	(1)個々の実態に応じた目標設定や支援の工夫に努める。 (2)目安となる時刻を児童の実態に応じて提示する。望ましい習慣やルールについて意識を高めるために、定期的に児童全体へ提示する。			
	(中) (1)自分の課題に気づき、自ら進路を考えようとする態度の育成に努める。 (2)自己有用感を持ち自ら積極的に行動する態度の育成に努める。	(1)自分の課題に気づいていない生徒や自分の進路に関して具体的な目標や夢を持っていない生徒がいる。 (2)自分の障がい等についての自己理解が学習により少しずつ進んでいるが、自己有用感が低く、積極的に行動できない生徒が多い。	(1)自分の課題に気づき解決方法を見つけ、それを進路実現に生かそうとしている。 (2)他のために、自ら行動を起こすことができる。	(1・2)自己評価だけでなく、他者評価も取り入れながら、自分の良さや課題、必要な支援を知る学習や支援を行う。 (2)生徒が他のために自ら行動を起こせたときには称賛し、他の生徒にも知らせる機会を持つ。			
	(高) (1)自立と社会参加を意識した生徒への指導を行い、進路の実現を図る。	(1)3年生については、高等部卒業後の進路については方向性が決まりつつあり、現場体験学習を積み重ね進路を決める段階である。また、1年生については、様々な学習を通して卒業後の進路について考える段階である。社会参加に向け、時や場に応じた言葉遣いや行動について課題を持つ生徒もいる。	(1)自分の進路を決定し、将来の社会生活を意識し、規律(時間・言葉遣い等)を守った生活をしようとする姿が見られる。	(1)現場体験学習や職場見学などを実施し、進路を意識づけるとともに、社会参加に向けて必要な力について考える機会を設定する。 (2)生徒の社会自立を意識した生徒指導が日々の生活の中でできるよう、生徒の課題について職員の間で共通理解を図る。			

評価基準 A：十分達成(100%) B：概ね達成(80%) C：変化の兆し(60%) D：まだ不十分(40%) E：目標・方策の見直し(30%以下)